



お年寄りに笑顔で話しかける森近さん。「大声で笑ったり、感動して泣いたり、心揺さぶられる瞬間が日々あります」

② 介護福祉士

* 感受性も実践力も必要

高齢者や障害者を心身の状態に応じて介護する。食事や入浴、排せつの介助に加え、本人の尊厳を保ち、自立した生活を送れるよう支える役割がある。人の気持ちを察する感受性や洞察力に加え、介護の目標や計画を立て、家族らと協力して実践する能力も求められる。

国家資格で、試験を受けられるのは、3年以上の実務経験があり実務者研修を修了したか、福祉系高校を卒業した人。養成施設の卒業生は試験を免除される。国の統計によると、施設で働く介護職員の平均月収は約22万円。試験の詳細は、社会福祉振興・試験センター (<http://www.sssc.or.jp/> / ☎03・3486・7559)。



その人らしさを保つ

森近恵梨子さん 26

「そろそろお昼の時間ですね。今日のメニューはどうしましょうか」。笑顔でお年寄りと言葉を交わす森近さんは、東京都文京区の介護事業所「ユアハウス弥生」で働いて、4年半になる。社会福祉を学んでいた大学生の時にアルバイトとして働き始め、魅力を感じてそのまま就職した。現在、27人のお年寄りが、自宅からここに通ったり、泊まったりする。多くは認知症だ。一緒に食事をとり、お風呂に入るのを手助けする。夜勤では、こまめに部屋をのぞいて変化がないか確認し、ト

イレの介助や話し相手をすることもある。

介護福祉士の仕事は、身の回りの世話だけでなく、「その人らしい生活」を支えることだという。たとえば、料理が得意な人には、食材を切ったりギョーザの具を皮に包んだりと、調理を手伝ってもらう。希望があれば、近所の神社へお参りに行き、なじみの美容室へ連れていく。「今まで通りの生活に一番近い形で過ごせるように」と、日々工夫を凝らす。医療関係者などと連携できるように、幅広い知識も必要だ。

お年寄りの最期に立ち会うことも多い。「どんなに生き続けてほしいと願い、一生懸命ケアをしても、亡くなってしまつ。初めの頃は、もつとできることがあったのではと自分を責めた。今は、亡くなるその時までこの世が好きであるように、この思いで寄り添う。」

「本人の可能性を引き出せた時が一番、うれしい。どんな状態になっても、諦めずに自分らしい生活が続けられるよう、陰で支えられたら」

(手嶋由梨)